

Mg マトリクス中の塩素分析方法の検討

【発表者】 稲葉 大輝、新木 翔太、杉浦 茜音、吉田 明子、浅野 俊之（茨城県産業技術イノベーションセンター）

【内 容】

マグネシウム（Mg）は実用化されている金属の中で最も軽く、比強度にも優れているため、次世代の構造材料として注目されています。しかし、塩素が不純物として残留すると耐食性が低下することに加え、Mg 材料中の塩素の含有量やその分析方法に関する規定がないことが問題になっていました。そこで本研究では、複数の手法で Mg 疑似試料の塩化物イオン濃度を測定し、実試料に適用できる測定手法を調べました。その結果、硝酸銀比濁法を用いて実試料を測定するためには、試料調製の条件に応じた測定波長や酸濃度を検討する必要があることが明らかになりました。本研究で得られた知見は、Mg 材料中の塩素分析方法の規格化に役立つことが期待されます。

【お問合せ】

茨城県産業技術イノベーションセンター

技術支援部 フード・ケミカル G（化学系）

TEL : 029-293-8576 / FAX : 029-293-8029

E-mail : food_chemical2(at)itc.pref.ibaraki.jp

※迷惑メール防止のため、「(at)」を「@」に書き換えてご送信ください。

